

ハワイ大学ヒロ校留学体験記

国際文化学科 Y. Y.

2011年8月から2012年5月までの10か月間、ハワイ大学ヒロ校（University of Hawaii at Hilo, UHH）において現地の大学生、及び留学生とともにさまざまな授業を受講した。ハワイ大学の授業の様子、ハワイにおける生活、そしてこの留学から得た経験についてまとめる。

1. ハワイ大学における授業

ハワイ大学においては以下に示した時間割のように、月曜日・水曜日・金曜日、火曜日・木曜日に同じ授業があり、ハワイ語のような語学の授業は月曜日から金曜日まで毎日ある。1週間に一度の授業を十数個、1学期間に受講しなければならない日本の大学とは対照的に、ハワイ大学では1学期間に受講するクラス数は平均4～6個である。

月	火	水	木	金
8:00-8:50 ハワイ語				
10:00-11:30 ESL Reading	9:00-9:50 アルバイト	10:00-11:30 ESL Reading	9:00-9:50 アルバイト	10:00-11:30 ESL Reading
	14:00-15:15 言語学		14:00-15:15 言語学	
17:00-17:50 ハワイの文化	17:00-19:45 コミュニケーション	17:00-17:50 ハワイの文化		17:00-17:50 ハワイの文化

（表：2011.08-2011.12 の時間割）

下の二つの例を挙げ、ハワイ大学で開講されている授業の様子について説明する。

① English as a Second Language（留学生のための英語の授業）

留学生のための英語の授業として設置されているのがこのESLという授業である。ESLにはGrammar(文法)、Listening and Speaking(リスニング&スピーキング)、Reading(リーディング)、Writing(ライティング)の4種類の授業がある。そのそれぞれのクラスに初級・中級・上級のクラスがあり、学期が始まる前にクラス分けテストが実施される。ただしTOEFL(Test of English as a Foreign Language)で好成績を獲得していれば、留学生であってもESLの授業を履修する必要はない。それぞれの授業は平均15人程度の留学生から構成されている。

私はリーディングの授業を秋期（2011.08-2011.12）に受講した。授業への参加態度が重視されたため、自分の意見を発言し、クラスメートとディスカッションをすることを求められ、リーディングの授業ではあったがスピーキング力も強化された。また宿題としてリーディング課題を読むだけでなく、その要約とそれに対する感想をレポートにまとめることでライティング力も鍛えられた。

留学生ばかりの教室だったため、プレッシャーもなく英語を話すことができ、この授業のおかげで英語を話すことへの抵抗感が軽減した。また、この授業でアメリカの大学で授業を受けるのに必要な総合的な英語力を獲得したと感じた。

② Critical Applied Linguistics (批判応用言語学)

これは最も印象的だった授業である。この授業は教授が学生に講義をするという形で進むものではなかった。30人弱の学生を10のグループに分け、それぞれに一つの論文が割り当てられ、各グループはその論文の内容についてプレゼンテーションを行う。そしてプレゼンテーションの最後にはクラス全体でその論文についてディスカッションが行われる。実に授業時間の80%はディスカッションに費やされていた。

このクラスで、アメリカの学生が自分の意見をはっきりと主張するように教育されてきているということを目の当たりにした。指名されずとも誰かが、“I think...”と話し始める。他の生徒と意見が違っても、臆病にならず自分の意見を述べる。ディスカッションの最中も、発言が途切れることはなかった。自分の意見を言うためには知識を得るために情報を獲得しようと調べ、自分で考えなければならない。私がこの授業から得た最大のメリットは、論文に書かれていることを鵜呑みにするのではなく、疑問を持ち、それに対して自分で調べて追求していくという姿勢ができたことである。

2. 日本語の授業のアシスタント

学生ビザしか持たない留学生にアルバイトは許可されていない。しかし、例外として学内における母語を使用した仕事は許可されている。その条件に準じてハワイ大学で日本人の学生に可能なアルバイトが、日本語の授業のアシスタントである。自分の母語を外国人日本語学習者に教えることによって、日本語を新たな方向から観察し理解することができた。また、日本語の授業を受講する生徒の多くは日本に対して何らかの興味を持っており、友達になりやすく、異文化交流をし、相互に自身の言語を教え合うことなど、とても貴重な経験をした。

3. 日本とアメリカの授業の相違点

アメリカの学生の中にはアルバイトをし、奨学金を申請することで、自ら授業料を払っている学生も多い。そのため彼らは授業から得られる最大限のものを得ようという積極的な姿勢で授業に臨む。疑問点があればその場で教授に質問し、自分の意見を積極的に発言する。このように授業は学生が主体となる。教授により授業の形式は異なるが、多くの教授は生徒が発言することを期待しているため、教授から生徒への一方通行的な講義になることは少なく、必然的に教師と学生のコミュニケーションが多く行われる。このように授業の雰囲気、生徒と教師の関係性も日本の大学とは大きく異なっている。

アメリカの大学の授業では、その要素としてディスカッションとプレゼンテーションが重視されている。学期末には筆記試験とレポートの提出があるだけでなく、自分が調べてまとめたレポートについてクラスで発表することで、教授・クラスメートからのフィードバックを得る機会が与えられる。これらのことから、アメリカの学生が自分の意見を相手に伝え、異なる意見について議論することをいろいろな段階で教育されていることがわかる。

4. 寮

学内には学生寮が4つあり、多くの留学生はその寮に住む。寮のラウンジには卓球台・ビリヤード台・テレビなどがあり、寮に住む学生だけでなく、多くの学生が集い親交を深める場となっている。一つの部屋を二人でシェアし、トイレ・シャワーも共用である。机・ベッド（シーツ、枕、掛布団などの備品なし）が各部屋に備え付けてある。



(写真：寮の部屋の初期状態)

寮は学内にあるため、教室への移動が楽であること（平均5分前後でどの教室にも行ける）が最大の利点として挙げられる。また、学外のアパートに住むよりも安全性が高い。前述したように多くの留学生は寮に住んでおり、それぞれの寮の間での移動も短時間でできるため、小さなコミュニティの中で多くの友達と密接な関係を築くことができる。

5. 食事

学内には朝7時から午後3時まで空いているカフェテリアがあり、多くの学生はそこで朝食及び昼食をとる。また、学内のいたるところに飲み物やスナックなどを売っているカウンタバーがある。寮に住んでいる学生は、ミールプランという寮から支給される夕食のプランに加入しなければならない。例えば、私は一週間に5回寮で夕食を食べるプランに加入しており、それ以外の食事はカフェテリアを利用するか、友人と外食をしていた。寮の食事はバイキング形式で、ハンバーガー・ピザ・フライドポテトのようなアメリカ料理もあれば、アジア、メキシコなど様々なスタイルの料理があったためアジア系の学生でも食事に困ることはなかった。ハワイには日本料理、韓国料理、中華料理、ベトナム料理、タイ料理などの様々なアジア系のレストランがあるため、寮の食事に飽きた時にはみんなで外食をすることで楽しいひと時を過ごしていた。

6. 週末の活動

週末には大学主催の Weekend Activity がある。事前に申し込みさえしていれば、無料で大学から出るバスでハワイ島の有名なビーチやマウナケア山、ハイキングなど、様々なところへ連れて行ってくれる。最初の数か月はこの週末の Activity に参加することで、新たな友人を増やし、仲の良い友人とはより親交を深めることができた。

時間が経つにつれ車を持っている友人と個人的に出かけることも多くなり、特に思い出深いのは天気の良い日には BBQ をしたり、一泊二日で小さなコテージを借りて大人数で小旅行をしたりしたことである。週末に遊びに出かけることで教室で出会った学生とも仲良くなり、それによりもちろん英語力も向上し、様々な考え方を知ることができた。



(写真：スクールバス)

7. 留学から得たこと

様々な国からの学生に出会い、交流することによって、多くの新しく異なる考え方がインプットされた。それによって私の価値観は拡大したと思う。また、日本が外国からどのように認識されているのかということを知った。韓国人の友人からは、「留学に来て実際に日本人の学生と交流するまで、日本人に対して好感は抱いていなかった。」と言われたことがある。歴史的な確執が後世まで引き継がれている現実を目の当たりにし、国際関係における自分たちの持つ責任について考えさせられた。それとは対照的に、異文化の中で生まれ育ったとしても同じ価値観を共有し、語り、理解することで外国人とでも親友にまでなれるということも分かった。

広島で生まれ、広島で育ち、親元を離れたことがなかった私は、留学という経験をするまではとても依存的だったと思う。しかし、とにかく主体性が求められる環境におかれたことで、自発的に何かをするということ学んだ。私の友人には奨学金・財政援助などを申請しアルバイトをすることで、自ら学費を払って大学に通っている学生が多くいた。彼らの姿に刺激され、自分でできることは自分でしなければならないという強い意識が生まれた。

留学に行く理由は様々だと思うが、個人的な意見としては英語を学びに行くだけではもったいないと思う。実際の大学の授業をアメリカ人学生とともに受けることでしか学べないこともある。また自分の専門分野を勉強することで英語を学ぶほうがより効率的な英語の学習方法だと思う。ある程度自分のやりたいことを決め、その授業の勉強をすることが英語力の向上になり、留学という経験を最大限生かしているのだといえると感じた。



(写真：Hapuna Beach、ハプナビーチ)



(写真：キャンパスの様子)